

萬福寺だより

第22号

HP <http://www.manpukuji.or.jp>

馬込から気持ちのよい風が吹いてくる

発行／曹洞宗 萬福寺護持会

2015年夏号／no.22／平成27年7月1日発行



ぼん
お盆
7.13

ご家族お揃いでお出かけ下さい



だいせがき
大施餓鬼
7.23



ひがん
秋彼岸
9.23

芋煮のお振る舞いは今年も行われます（秋彼岸）



卒塔婆を手にお墓参りへ



お父さんとお墓参り



お花が供えられ線香の煙が立ちのぼる墓前で故人を偲ぶ

写真は昨年の行事の様子です

萬福寺に寄進された「磨墨塚」について

前号の続き

萬福寺住職 安本 利正

前号に磨墨塚を書いたら、それを読んだ神奈川県小田原の方から、小田原市の北方の南足柄市生駒にも磨墨塚があると、地図を書いて教えて下さいました。早速、南足柄市へ問い合わせると、すぐにご回答をいただきました。その場所は塚ではなく、足形社と称する神社でした。相模国風土記(今から一七三三年前の記録)には、「源頼朝秘蔵の磨墨の産せし地なれば村名とす」「彼馬は毛色純黒にして大形の馬で磨墨と名付けり、村名も頼朝が名付ける所と伝える」「足形社は駒形権現とも呼べり」とあり、その地の付近には駒形新宿、生駒山の地名や駒千代橋の橋名があって、生駒の伝説が人々に愛されてきたことが知られます。

梶原家と馬込の最初の関係

源頼朝は治承四年(一一八〇年)、箱根合戦に敗れて舟で房州(千葉県)へ逃れた。房州の平広常はその地(夷隅郡硯村)で生まれた名馬を頼朝に献上した。頼朝は馬名を磨墨と名付けて愛育し、池月、若白毛と共に三名馬として秘蔵した。献上された時に馬齢は三、四歳とすれば、宇治川先陣争い(一一八四年)は、その四年後であるから、馬齢は七、八歳になっていたと思われる。馬の寿命は約十五年前後と言われているので、最盛期であったであろう。梶原一族が静岡で滅

亡した正治二年(一二〇〇年)には馬齢二十歳を越えているので、初代磨墨はすでに死亡し、二代目の磨墨が奮戦活躍したのであろう。

梶原一族は正治二年(一二〇〇年)に滅亡したが、女房子供は実家へ戻って生育され、約二十年後に息子たちは成人している。梶原景季の長男景望は承久三年(一二二一年)に大井村に領地を拝領した。その三男景氏は建長年中(一二四九―一二五六年)、馬込村に先祖の墓と阿弥陀堂を建立した。これが梶原景氏と馬込村との関係の最初である。この両者の間には何か特別な関係があったのだろうか。元応二年(一二三〇年)に大井萬福寺は火災で焼失し、六代梶原景嗣は寺を馬込村の阿弥陀堂へ移し、大井の梶原屋敷を馬込村へ移している。これも馬込の住人たちが昵懇の間柄であったから実現したことだろう。現存する南馬込の磨墨塚は三代景氏以後に造られたと考えられる。特に六代景嗣は屋敷を馬込に移しているので、塚を造る可能性は最も濃厚であろう。

初代磨墨はどこに葬られたか

ここで話題を最初に戻して、初代磨墨が馬齢十五歳前後で死亡したとすると、当時の梶原屋敷は浄妙寺(神奈川県鎌倉市)の東側であり、初代磨墨の墓はその近辺であろう。正治二年(一二〇〇年)に静岡で奮戦した磨墨は二代目か三代目であり、馬齢も最盛期の駿馬であったと考えられる。その磨墨は景時山で景時が敗死の時に共に勢力尽きて死亡したと伝えられ、その後村人たちによって祀られたと伝えられている。

馬込の伝説の中に磨墨は逃げてきて馬込を回って駒落谷で死んだ、との話があるが、静岡で死亡しており、来ることはなかった。これは後世になって馬込村の人たちの願望であったのでありましょう。大井梶原氏も代々にわたって先祖の遺徳を偲び、名馬を求むる時に黒毛の馬があれば、求めて磨墨と名付けて愛育したのであろう。それが死ぬと埋葬して塚を磨墨塚と名付けたでしょう。磨墨の名は有名であるから馬の愛好者は黒毛の馬を求むれば磨墨と名付けたであろう。全国に磨墨の生誕地が多数存在するのは襲名されたので、多くの磨墨が存在したのである。今回調べて十一カ所の生誕地が見つかった。前記の南足柄の生駒も、その幾代目かが生まれた場所であろう。全国に磨墨塚を調べてみると六カ所発見した。もっと数が多く存在するのであろうが、後考にまかせたい。梶原氏の分家は全国に散在するので、中には先祖景時公を偲んで馬名を磨墨と名付けたであろう。後代になる程、伝承は有名になり、特に江戸時代になると芝居芸能となって愛好者が増加している。

現在の南馬込の磨墨塚(写真)

- ① 塚の中央に明治三十三年(一九〇〇年)八月に建てた大形の板石に磨墨塚と刻み、三十六名の姓名を刻んでいる。
- ② 左の細長い小碑に「午の方あぶみが谷、子の方駒落が谷、正治二年(一二〇〇年)二月十七日埋塚せりと云」の文字を刻む。午は南方を、子は北方を示している。
- ③ 右に享保五年(一七二〇年)十一月建立の庚申塔があり、十人の名を刻んでいる。



- ④ 右奥下(塚の反対側)の角石柱に馬頭観世音大正五年(一九一六年)十月十三日金子直次郎建之と刻む。

古くは「磨墨塚、安倍猪左衛門尉家久建之」と刻んだ丸形の石があったが、石積の中に埋もれて今は見られない――と伝えられている。

安倍猪左衛門と称する人は慶長十一年(一六〇六年)に梶原家の墓石を建てた人で、今から四〇九年前の人であり、それ以前に磨墨塚に石碑を建てない時代があったとすれば、更に二、三百年前から存在していたとも想像されます。ただし、景時、景季の磨墨ではないことは明白です。後世に造られた塚です。

以上、磨墨塚について調べてみると、南馬込の磨墨塚は特別に有名であって、多くの書籍に引用されて最も有名な存在です。

萬福寺の行事はどなたでも参加できます。



仮設の高座で熱演する柳朝師匠

春 彼岸の中日となった3月21日、春彼岸法要が営まれました。当日はお昼前から多くの参詣者が訪れ、萬福寺護持会によるお汁粉のお振る舞いもあって、境内はいつになく賑わいをみせていました。

法要に先立って、午後1時から本堂では六代目春風亭柳朝師匠による落語会が開催されました。会場の本堂には仮設の高座が設けられ、二百人を超える大勢の参詣者が集まり、本堂は明るい笑い声に包まれました。

柳朝師匠は地元・大森山王にお住まいで、文化の森などでも落語会を開くなど、地元での活動も精力的に行っています。

春彼岸法要

平成27年3月21日(土・祝)

今年は春風亭柳朝師匠の落語を楽しみました



200名を超える参詣者が詰めかけた本堂内

護持会関係者と親交があり、今回の落語会をお願いしました。もともと落語とお寺は縁が深いそうで、落語界では「てぬぐい」を「まんだら」と呼び、落語家が扇子を持つのも僧侶の使う「中啓(扇)」が源流とのことでした。

この日の演題は、知ったかぶりの和尚さんと、いたずら好きの小坊主さんの掛け合いが楽しい「転失気」と、釣り禁止の不忍池で釣りをして役人に捕まり、親孝行を理由に許しを請う「唾の釣り」の二題でした。テンポのよい軽妙な語り口で、萬福寺寄席は大いに盛り上がりまりました。

その後、午後2時より安本利正ご住職様はじめ10名の僧侶による法要が厳かに営まれ、ご法要いただいた卒塔婆を手に参詣の皆様は三々五々、お墓参りに向かいました。

TOPICS

萬福寺「古文化講習会」参加者を募集

ご住職所有の実物を手にして聴講する異色の講習会

萬福寺では安本利正ご住職様を講師に「古文化講習会」を開催します。ご住職様所有の実物を、受講者が実際に手にしながら聴講するという異色の講習会です。テーマは古写経、古漆器の美、香木と線香、地獄図と閻魔図、平家納経の複製など、10項目に及び、2カ月に1回程度の開催を予定しています。

テーマ、申込要項、参加費など詳しくは同封の別紙をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。



平家納経(写真上)と各種古写経



午後2時より始まったご法要



(上) 参詣者にお汁粉が振る舞われた
(下) お墓の花器にお花を生ける平林恵美子さん

萬福寺の公式ホームページをご覧ください。

馬込萬福寺

<http://www.manpukuji.or.jp>

萬福寺の行事はどなたでも参加できます。

INFORMATION

夏から秋の仏事のご案内

7.13 うらぼんえ しょうれいむかえ 孟蘭盆会(お盆 精霊迎)法要

正午(12時)より新盆法要・午後1時より法話・2時より法要

お盆はご先祖様の精霊を生家にお迎えする行事です。同時に、父母兄弟一族の親睦を図るまたとない機会です。13日にはお墓参りにお越しいただき、ご帰宅後にはご先祖様のお好きだったものをお供えし、皆様で故人を偲んで想い出話をされてはいかがでしょうか。



7.23 だいせがきえ 大施餓鬼会法要

午後1時より法話・2時より法要

施餓鬼会では、三界萬霊(ありとあらゆる霊)と餓鬼に施しを行い、萬有の靈力に感謝を捧げ、あわせて先祖を供養して、萬霊を供養している我々の姿を見てもらい安心していただく大切な行事です。僧侶約40名が読経しながら堂内を巡り歩く様子は壮観です。



9.23 ひがん 秋彼岸法要(心の法話)

午後1時より法話・2時より法要

春、秋と年に2回ある彼岸の中日は、太陽が真東から上がって真西に沈みます。西方の彼方にあると伝えられる阿彌陀如来が治める極楽浄土に思いをはせたのが彼岸の始まりです。ご先祖様を敬い偲び、今ある幸せに感謝しながら、ご家族お揃いでご参詣ください。



10.28 きしぼじんきがん 鬼子母神祈願法要

午前11時より

鬼子母神は、子育て、安産、そして災厄を除き、福をもたらす守護神として崇められています。日蓮聖人から寄進されたと伝わる当山の寺宝・鬼子母神像を身近に拝観し、子供の健やかな成長、家内安全、子孫繁栄を願ってお参りください。



お知らせ

千葉県外房の誕生寺参拝と鴨川海の幸
日帰りバス研修旅行

日時 10月7日 水



萬福寺護持会では、10月7日(水)に、日蓮上人の誕生寺を訪ねる日帰りのバス研修を行います。参拝後は、鴨川館で豊かな海の幸の昼食を楽しみ、皆様の親睦を深めたいと存じます。

檀家様、その他の方のご参加も歓迎いたします。別紙ご案内をご参照のうえ、ご家族、お友達等お問い合わせ、萬福寺受付(寺務所)へお申し込み下さい。

写経会 11月14日(土) 午後1時から3時 ご都合のよいお時間でご参加ください。(参加費千円。写経紙・筆など無料貸出し)

御葬儀・法要の連絡は
萬福寺本堂総受付まで

法要は「追善法要」ともいい、故人が浄土で安楽であるようにと願いを込めて行うものです。年忌法要は葬儀とは違い予定が立てられます。できれば半年前、少なくとも3カ月前には準備を始めましょう。

御葬儀・法要のお問い合わせ・お申し込み

萬福寺本堂総受付 ☎03-3771-2025

※ 梶原殿の会場使用につきましては、他社の葬儀社も利用できます。

編集後記

萬福寺のある馬込地域が今注目を集めています。「馬込文士村」の名のとおり、かつて多くの文士たちが住んだことで知られ、以前から散歩コースでも人気がありましたが、最近、大田区馬込特別出張所の企画による「馬込まち歩き」講座では他の地域をしのいでの人気ぶりで、あっという間に満員締切となったとのことです。これまでも馬込散策の方が個人・グループを問わず、よく萬福寺境内を訪れていましたが、これからもっと増えそうです。

7月になるとお盆やおせがきで、萬福寺においでになる機会も多くなることでしょう。帰りがけに、お寺の近くの馬込名所散策も楽しいかもしれません。また、護持会へのご意見やご要望なども、どうぞお聞かせ下さい。お待ちしております。

萬福寺「古文化講習会」参加者募集

—実物を手にして受講する講習会を開催—

普通、奈良時代の天平写経を展覧会場で拝観する場合、ガラスケース越しに頭を傾けながら鑑賞します。今回、萬福寺が主催する「古文化講習会」では、講師が所有する天平写経の一巻(奈良・興福寺旧蔵)を皆様に手渡しして話をします。天平写経を手にした受講者はそれを左手に持って、右手で開いて中に書かれた文字を読むことができます。古写経は、文字は小さいが強烈な筆力を感じさせられ、1200年

の歴史を実感することができます。

このような受講者が古写経などの実物を手にしながら聴講する講習会は、見たことも聞いたこともありませんが、今回、初めて実施したいと思います。なお、この講座の特質上、参加人数を制限したいと思います。恐れ入りますが、下記要項に従ってお申込みください。

講義テーマは以下を予定しています。

テーマ (予定)

講師 安本利正 会場 萬福寺

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| ① 古写経 | ⑥ 地獄図と閻魔図 ^{えんま} |
| ② 古漆器の美 | ⑦ 須弥山図 ^{しゅみせん} で見る仏教の宇宙観 |
| ③ 古錦と刺繍 | ⑧ 和紙の美と力 |
| ④ アジアの古写経 | ⑨ 平家納経の複製 |
| ⑤ 香木と線香の各種 | ⑩ 源氏物語絵巻の木版複製本 |

お線香の中には長さ1メートル以上の太いものや、大形の渦巻きで100日間も燃え続けるものがあります。アジアの古写経は椰子の葉に書いた粗末なものから、赤や極彩色に金色のまばゆいものまで実に多彩です。平家納経の複製、その他装飾経の複製も見事です。

募集要項

- 参加ご希望の方は下記申込書に必要事項ご記入のうえ、本用紙をそのままファックス送信してください。
- お申込みいただいた方には、テーマごとに開催日時をはがきで通知しますので、その都度、参加・不参加の旨必ずご連絡ください(1テーマを2カ月に1回程度で開催予定)。
- 参加者数を限定するため、参加費毎回金1,000円を申し受けます(当日会場で受付)。

講習会参加申込書

送信先

「古文化講習会」に参加を希望しますので、下記あて開催連絡はがきをご郵送ください。

萬福寺 FAX 03-3771-2140

ふりがな 氏 名		年齢 性別	歳 (男・女)
住 所 (電 話)	〒	(電話)	-